

〔 短 歌 。 俳 句 。 川 柳 〕

短 歌

足元の春と交差の散歩道

漂う雲よ飛び交う鳥よ

●仙台市 菱沼俊行

十年前よちよち歩きで入会し

本物人生学んで退会

●富谷市 佐藤英克

老いければ友は賀状の友となり

淋しき余生励ましあえり

●印西市 山田 明

寒さ緩み春の気配の多摩川で

マラソン人が声を掛合い

●狛江市 根方一吉

寒さ未だ衰えねども日脚延ぶ

夕焼空に心浮き立つ

●東京都神津島村 石田希代子

春が来る短い日々が去るころは

暑い暑いとまた猛暑かな

●平塚市 鬼武澄江

近年は恐るべきあり戦争の

光と影が同時に襲う

●平塚市 田中博由

朝ぼらけ紅梅蕾香放つ

朝日の花びらみごとならんと

●福知山市 岬尾 充

堅雪に躓きながら立ち止まり

蛇行の人生振り返る朝

●明石市 小田慶喜

潜り抜け曼茶羅花のバスケット

捉え切れない春よ捉えて

●南あわじ市 小川千富

八十路越え仕事が出来る活力は

玉鶯関にパワーを貰う

●香芝市 高田尚昭

冬空に一番星を見つけたよ

光輝き明日の道へ

●愛媛県鬼北町 岸本繁義

俳 句

四月来て花の肥料を一袋

●小山市 原田利江

梅林や透けて流るる雲の影

●本庄市 入 利雄

松の芯玄関先まで影伸べて

●本庄市 長谷川千鶴子

春の雪身支度する間に日の光

●草加市 長谷部禎子

穏やかな朝露の臺香る炊込を

●戸田市 稲田隆博

沈丁を一枝手折り友むかえ

●戸田市 高橋近代

雨が去りつくしにノビル雑草花

●東京都葛飾区 東海洋一

ボール蹴る小さき頬に春の風

●武蔵村山市 原野晴光